

○巻頭特集

「鹿児島県地球温暖化対策実行計画」の改定

1 地球温暖化の現状

◆二酸化炭素濃度の変化

地球温暖化への影響が最も大きい温室効果ガスである二酸化炭素（CO₂）の地球全体の濃度は、年々増加しています。2020（令和2）年の世界の平均濃度は413.2ppmであり、工業化（1750年）以前の平均的な値とされる278.3ppmと比べて、49%増加しています。

◆世界の気候変動の現状(気温)

2021（令和3）年の世界年平均気温（陸域における地表付近の気温と海面水温の平均）の基準値（1991～2020年の30年平均値）からの偏差は+0.22℃で、1891（明治24）年の統計開始以降、6番目に高い値となりました。世界の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年当たり0.73℃の割合で上昇しています。特に、1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています。

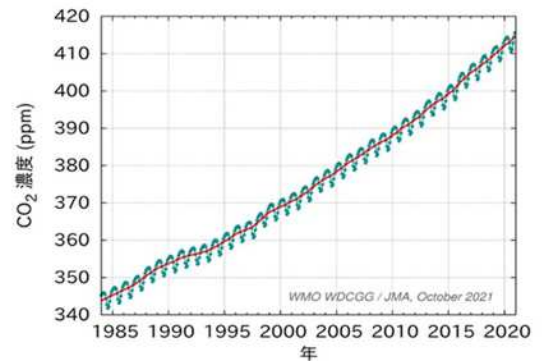
◆鹿児島県の気候変動の現状(気温)

本県における年平均気温の100年当たりの変化傾向をみると、鹿児島で1.92℃、名瀬で0.95℃、阿久根で1.62℃、枕崎で1.65℃、種子島で1.61℃の割合で上昇しています。

◆気候変動による環境への影響

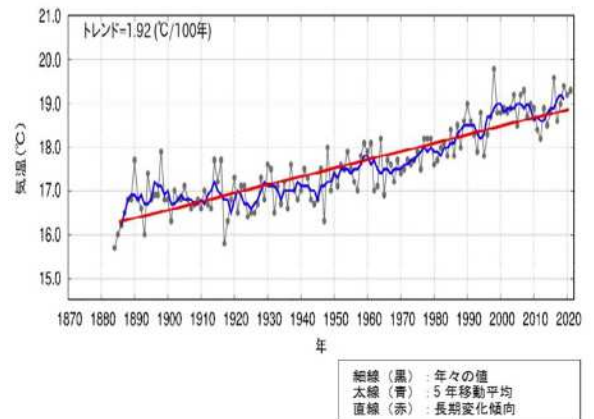
IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第6次評価報告書は「人為起源の気候変動は、極端現象の頻度と強度の増加を伴い、自然と人間に対して、広範囲にわたる悪影響と、それに関連した損失と損害を、自然の気候変動の範囲を超えて引き起こしている。」としています。その上で、地球の温暖化は疑う余地がなく、その結果、気温の上昇、極端な大雨の頻度や強度の増加、海面の上昇や極端に高い潮位の発生など、様々な現象が世界中で起こっている観測事実として挙げられるとしています。

【地球全体の二酸化炭素濃度の変化】



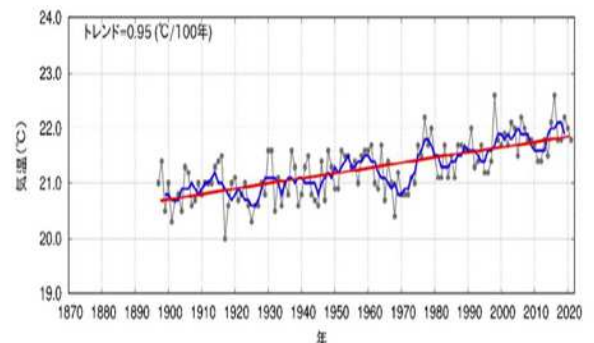
資料 気象庁ウェブサイト

【鹿児島の年平均気温の経年変化】



※鹿児島観測所は、1994(平成6)年に官署移転をしたため、移転前後の値を直接比較することはできないが、長期傾向の参考として記述。

【名瀬の年平均気温の経年変化】



資料 九州・山口県の気候変動監視レポート2021 (福岡管区気象台)

2 鹿児島県地球温暖化対策実行計画とは

◆計画の意義

本計画は、本県の自然的・社会的条件に応じた温室効果ガスの排出削減等のための対策・施策を総合的かつ計画的に推進するため、温室効果ガスの排出削減目標を定め、その削減に向け、県民・事業者・環境保全活動団体・行政等のそれぞれの役割に応じ、また、互いの連携による取組を進めるための具体的な行動指針などを定めたものです。併せて、気候変動の影響に対処するため、適応に関する基本的な方向性や適応策などを定めています。

◆計画期間

計画の期間は、2023（令和5）年度から2030年度までの8年間としています。

3 温室効果ガス排出量の推移と削減目標

◆排出量の推移

本県の温室効果ガス総排出量は、1990（平成2）年度以降、増減を繰り返しながら推移し、2013（平成25）年度に最も多くなり、その後は減少傾向です。

◆総量削減目標等

削減目標は、本県における将来推計結果（現状すう勢ケース）や、国による中期目標達成に向けた温室効果ガスの排出削減、吸収に関する対策による削減見込量等を踏まえ、以下のとおりとしました。

2030年度までに2013年度比46%削減を目指します。（森林吸収量を含む）



■部門別削減目標等

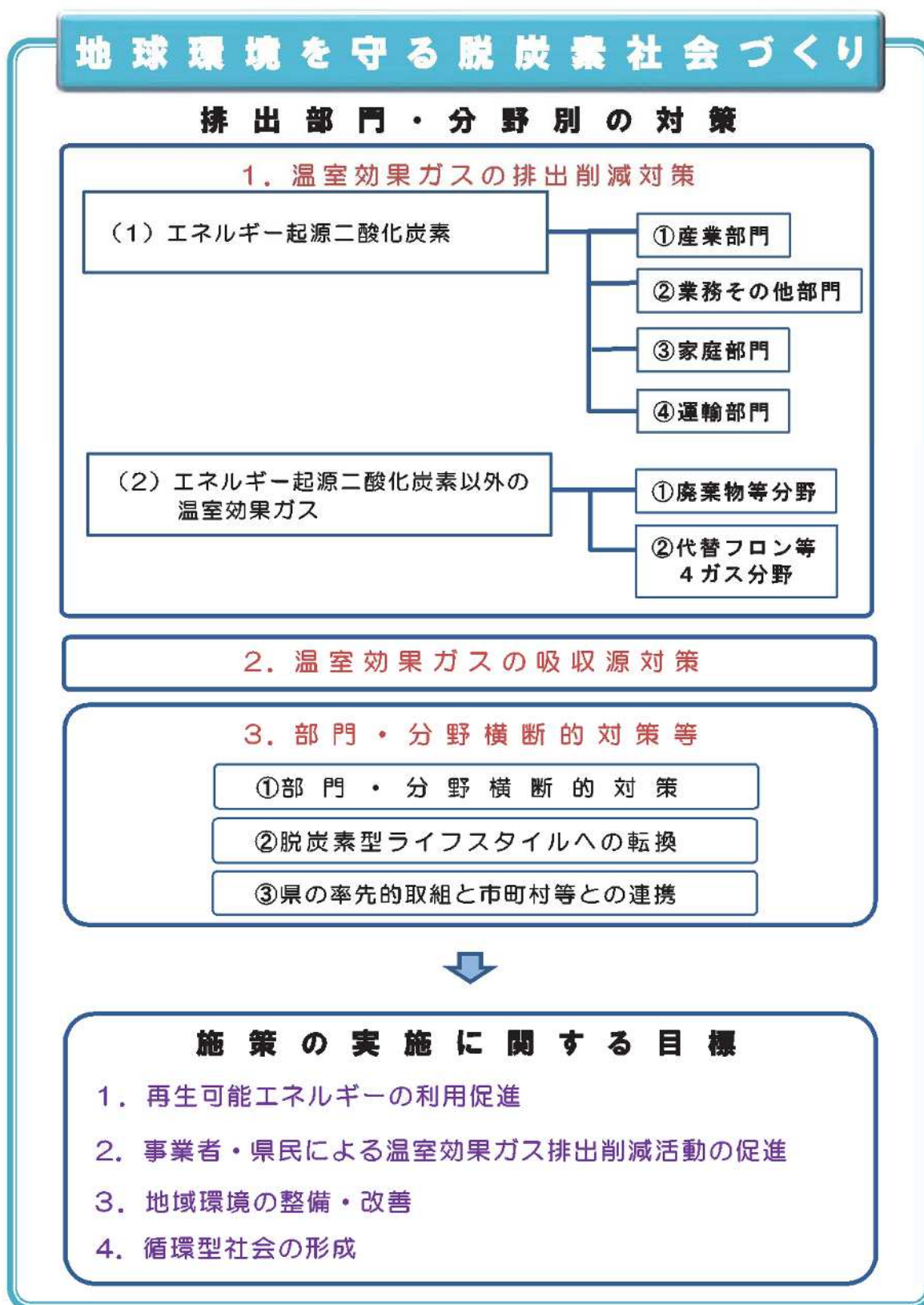
(単位：千トン CO₂)

部門	2013年度基準年度	2030年度目標年度	2013年度比(削減量)
対策等による削減目標	産業部門	2,388	1,308 ▲45% (▲1,080)
	業務その他部門	3,078	1,496 ▲51% (▲1,582)
	家庭部門	1,866	627 ▲66% (▲1,239)
	運輸部門	4,547	3,366 ▲26% (▲1,181)
	エネルギー転換部門	401	171 ▲57% (▲230)
	その他部門	2,944	2,626 ▲11% (▲318)
	合計	15,223	9,594 ▲37% (▲5,629)
森林吸収による削減効果	-	1,375	
森林吸収を含む合計	15,223	8,219 ▲46% (▲7,004)	

備考 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

4 温室効果ガス排出削減に関する対策・施策

温室効果ガス排出削減等により脱炭素社会を実現するため、各種対策・施策を展開していきます。



5 施策の実施に関する目標

(1) 再生可能エネルギーの利用促進

再生可能エネルギーの導入量の増加を目指します。

区分		2030 年度 目標	2021(令和 3)年度 実績(参考)
発電	太陽光発電	2,980,000 kW	2,307,721 kW
	風力発電	715,000 kW	270,998 kW
	水力発電	292,000 kW	264,526 kW
	地熱発電	71,000 kW	66,920 kW
	バイオマス発電	149,000 kW	143,275 kW
熱利用	太陽熱利用	52,000 kL	44,172 kL
	バイオマス熱利用	149,000 kL	122,470 kL
	地中熱	460 kL	291 kL
	温泉熱	導入事例を増やす	—
バイオマス燃料製造		190 kL	94 kL

(2) 事業者・県民による温室効果ガス排出削減活動の促進

新車登録台数に占める電気自動車（EV）、プラグインハイブリット車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）の割合の増加を目指します。

新車登録台数に占める EV, PHV, FCV の割合
2020(令和 2)年度 0.3% ➡ 2030 年度 20%

(3) 地域環境の整備・改善

再造林面積の増加を目指します。

再造林面積
2017(平成 29)年度 512ha ➡ 2028 年度 1,200ha

(4) 循環型社会の形成

一般廃棄物の排出量の減少及びリサイクル率の向上を目指します。

一般廃棄物の排出量
2020(令和 2)年度 544 千トン ➡ 2030 年度 437 千トン
一般廃棄物のリサイクル率
2020(令和 2)年度 16.0% ➡ 2030 年度 27.7%